

# 令和8年度 病害虫発生予察情報

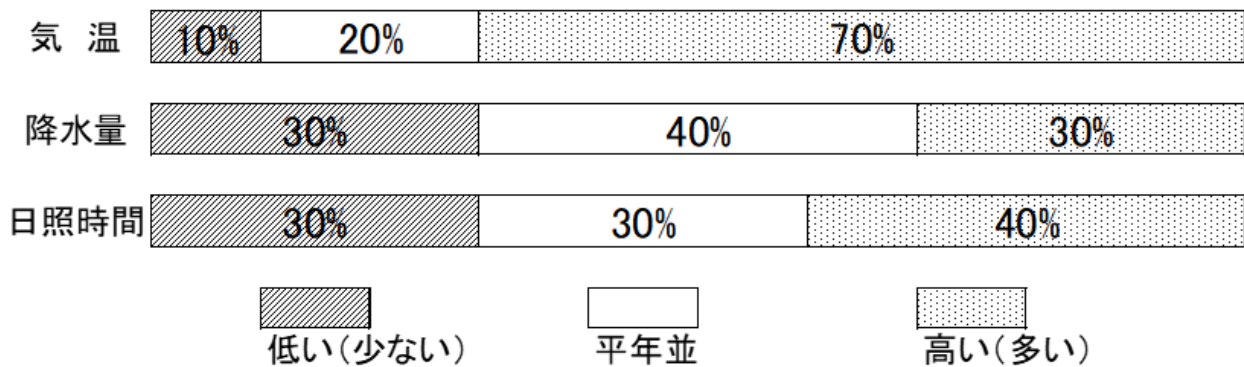
## 発生予報第3号（6月）

令和8年6月1日  
島根県

### 予報の概要

区分	農作物名	病害虫名	予想発生量
普通作物	イネ	ヒメトビウンカ	平年並
		ニカメイチュウ	やや多い
		イネミズゾウムシ	平年並～やや多い
		セジロウンカ	やや多い
果樹	ナシ	黒斑病	やや多い
		黒星病	平年並
		シンクイムシ類	平年並～やや多い
		ハマキムシ類	やや多い
		ハダニ類	やや少ない
野菜	カキ	カキタアザミマ	平年並
	タマネギ	ボトリクス属菌による葉枯れ	平年並
		べと病	平年並
		腐敗病・軟腐病	平年並

中国地方1か月予報(5月30日～6月29日・広島地方气象台5月28日発表)  
＜向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)＞



### A. 普通作物

#### 1) イネ

##### (1) ヒメトビウンカ

#### 予報内容

発生地方 県内全域

発生時期 平年並

発生量 平年並

#### 予報の根拠

- 5月下旬の巡回調査における発生ほ場率は4.7%（平年8.1%）、捕獲数は0.07頭/50株（平年0.2頭）と発生量は平年並みである。
- 5月第5半旬までに空中ネットトラップ（出雲市）において1頭（平年0.1頭）が捕獲されており、捕獲量はやや多い。予察灯への飛来は認めておらず、平年並みである。
- 向こう1か月の気象は、本種の発生に対してやや助長的である。

(2) ニカメイチュウ (第1世代)

予報内容

発生地方 県内全域  
発生時期 やや遅い  
発生量 やや多い

予報の根拠

- ① 予察灯への初飛来は4月30日(平年5月2日)で平年並みであった。5月第5半旬までの誘殺数は13頭(平年39.0頭)と過去10年で3番目に多かった。発生量は平年に比べてやや多かった。
- ② フェロモントラップへの飛来は5月7日(平年4月22日)で平年に比べてやや遅い。5月第5半旬までの誘殺数は7頭(平年48.8頭)と少ない。
- ③ 前年の第2世代成虫発生量は、予察灯では238頭(平年16.3頭)と平年に比べて多い。
- ④ 向こう1か月の気象は、本種の発生を抑制する要因とはならない。

(3) イネミズゾウムシ

予報内容

発生地方 県内全域  
発生時期 やや早い  
発生量 平年並～やや多い

予報の根拠

- ① 5月下旬の巡回調査における発生ほ場率は25.6%(平年25.4%)と平年並み、捕獲数は0.44頭/50株(平年0.70頭)と発生量は平年並みである。
- ② 予察灯への初飛来は4月18日(平年5月3日)でやや早い。5月第5半旬までの誘殺数は2頭(平年34.9頭)と平年に比べてやや少ない。
- ③ 前年の新成虫の予察灯による誘殺数は293頭(平年101.2頭)と本年の越冬量は平年に比べて多いと考えられる。
- ④ 向こう1か月の気象は、本種の発生を抑制する要因とはならない。

(4) セジロウンカ

予報内容

発生地方 県内全域  
飛来時期 やや早い  
発生量 やや多い

予報の根拠

- ① 5月下旬の巡回調査における発生ほ場率は4.7%(平年1.3%) 捕獲数は0.07頭/50株(平年0.02頭/50株)と発生量はやや多い。
- ② 予察灯への飛来は5月第5半旬まで認めておらず、平年並みである。
- ③ 向こう1か月の気象は、本種の発生を抑制する要因とはならない。

B. 果樹

1) ナシ

(1) 黒斑病

予報内容

発生地方 県内「二十世紀」栽培地帯  
発生量 やや多い

予報の根拠

- ① 5月下旬の巡回調査では、発病葉率2.4%(平年1.0%)と、発生量は平年に比べてやや多い。
- ② 向こう1か月の気象は、本病の発生を抑制する要因とはならない。

(2) 黒星病

予報内容

発生地方 県内ナシ栽培地帯  
発生量 平年並

予報の根拠

- ① 5月下旬の巡回調査では、発病葉率0.1%(平年0.1%)と、発生量は平年並みである。
- ② 向こう1か月の気象は、本病の発生を特に助長する要因とはならない。

### (3) シンクイムシ類

#### 予報内容

発生地方 県内ナシ栽培地帯  
発生時期 平年並  
発生量 平年並～やや多い

#### 予報の根拠

- ① 性フェロモントラップでのナシヒメシンクイの誘殺時期は平年並み、累計誘殺数は52頭(平年45.8頭)と平年並みである。
- ② 前年のナシヒメシンクイ第3世代成虫の誘殺数は平年並みであり、越冬量は平年並みと考えられる。
- ③ 向こう1か月の気象は、本種の発生に対してやや助長的である。

### (4) ハマキムシ類

#### 予報内容

発生地方 県内ナシ栽培地帯  
発生時期 平年並  
発生量 やや多い

#### 予報の根拠

- ① 性フェロモントラップでのハマキムシ類の誘殺時期は平年並み、累計誘殺数は、チャハマキは17頭(平年11.7頭) チャノコカクモンハマキは67頭(平年50.8頭)と平年に比べてやや多い。
- ② 向こう1か月の気象は、本種の発生を抑制する要因とはならない。

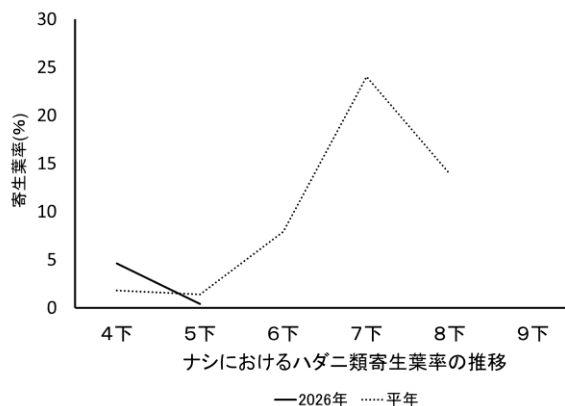
### (5) ハダニ類

#### 予報内容

発生地方 県内ナシ栽培地帯  
発生量 やや少ない

#### 予報の根拠

- ① 5月下旬の巡回調査(安来市)では寄生葉率は0.3%(平年1.4%)と平年に比べて少ない。主要種はクワオオハダニで、本種に効果がない殺ダニ剤があるので薬剤の選定には注意する。
- ② バンドトラップ調査では、ハダニ類の越冬量は平年並みである。
- ③ 向こう1か月の気象は、本種の発生に対してやや助長的である。



## 2) カキ

### (1) カキクダアザミウマ

#### 予報内容

発生地方 県内カキ栽培地帯  
発生時期 平年並  
発生量 平年並

#### 予報の根拠

- ① 5月下旬の巡回調査(平田市)では、本種による被害を確認していない。
- ② 5月下旬までに黄色粘着トラップでの越冬成虫の誘殺は認められない。
- ③ 5月13日に現地無防除園において、本種による巻葉被害を確認した。
- ④ 向こう1か月の気象は、本種の発生に対してやや助長的である。

## C. 野菜

### 1) タマネギ

#### (1) ボトリチス属菌による葉枯れ

#### 予報内容

発生地方 県内全域  
発生量 平年並

#### 予報の根拠

- ① 5月下旬の巡回調査では、発生ほ場率18.2%(平年18.5%)、発病株率0.4%(平年1.0%)と、発生量は平年並みである。
- ② 向こう1か月の気象は、本病の発生を特に助長する要因とはならない。

(2) ベと病

予報内容

発生地方 県内全域

発生量 平年並

予報の根拠

- ① 5月下旬の巡回調査では、発生ほ場率 86.4% (平年 64.2%)、発病株率 26.5% (平年 21.8%) と、発生量は平年並みである。
- ② 向こう 1 か月の気象は、本病の発生を特に助長する要因とはならない。

(3) 腐敗病・軟腐病

予報内容

発生地方 県内全域

発生量 平年並

予報の根拠

- ① 5月下旬の巡回調査では、発生ほ場率 31.8% (平年 45.3%)、発病株率 3.1% (平年 4.3%) と、発生量は平年並みである。
- ② 向こう 1 か月の気象は、本病の発生を特に助長する要因とはならない。

【参考となる事項】

※最新の農薬登録状況

農林水産省ホームページには、農薬登録情報提供システムが掲載されています。

農林水産省農薬登録情報提供システムのアドレスは <https://pesticide.maff.go.jp/>

島根県病害虫防除所 (島根県農業技術センター 資源環境研究部 病虫科)

〒693-0035 出雲市芦渡町 2440

TEL 0853-22-6772、FAX 0853-24-3342

ホームページアドレス

[http://www.pref.shimane.lg.jp/industry/norin/gijutsu/nougyo\\_tech/byougaityuu/](http://www.pref.shimane.lg.jp/industry/norin/gijutsu/nougyo_tech/byougaityuu/)

e-mail boujyo@pref.shimane.lg.jp